

翔生



Special Copyright

これは若者や学生が活躍の場を創出し、活躍の機会を拡大する上で、YEGが中心となって取り組んでいる。YEGは、若者や学生が活躍の場を創出し、活躍の機会を拡大する上で、YEGが中心となって取り組んでいる。YEGは、若者や学生が活躍の場を創出し、活躍の機会を拡大する上で、YEGが中心となって取り組んでいる。

会長・次年度会長挨拶

会長挨拶・二年を振り返り

「連携YEG 実践展開 パーチャルへ」と、意義深い一年間、皆様に感謝。

平成13年度
全国商工会議所青年部連合会

会長 古泉 幸一



「連携YEG 実践展開 パーチャルへ」のスタートのち、二年間を会長として活動の場をいただきました事を、ここにあらためて全国のメンバーに感謝申し上げます。

全国の皆様と本会に数多く出会いをさせていただき、交流を重ねていただいたおかげで、一年間を思いのほか早く過ごさせていただきました。春の各ブロックで開催されました会長会議や各ブロック大会では、各地における単会がいくつもの地域の問題に対し、真剣に考え行動されているか、あらためて深い認識をさせられてきた。地域にちよって考え方も、また問題点もかなり違っています。ただ、我々YEGは本会に地域に必要とされている事だけは変わらないと感じました。

事あることに申し上げてまいりましたが、13年度には正式に日本商工会議所の定款に全国商工会議所青年部連合会が記載されました。日本商工会議所とは、国が認めた唯一の経済団体であることは、皆様ご存知の事と思います。その一員として認められたことは、商青連を国が認

めて頂いたということになります。その意義深さに改めて事の重大さと、今後の活動の目標とを改めてお話しさせていただきます。

青年部という組織は、「自分たちの経済環境を改善する」ことが第一であるというのが私の持論であり、残念ながら厳しい経済環境という点からは非常に厳しい一年となつてしまいました。すべてにおいて前車のかみ合わない、何か根拠としない重苦しい空気に包まれて、何かに思われ、苦しい思いを抱えています。私の誕生日に控えたという事実から、大手量販店やゼネコンなどの倒産と、今までは考えられない事態がおきてまいりました。そんな中で、団体活動が、無理や無駄な努力を待たなければならぬと思えます。また商青連の各種事業や大会において各単会の会長様にはたぶんにご苦労をされたことと想います。本会にありがとうございます。

各地の商工会議所青年部のメンバーにおかれましては、それぞれが考えた目的を持ち、連携の考えをお持ちだと思えます。だからこそ議論ができ、実りある交流ができるのだと思えます。人と接し、交流することで自分自身が大きく変われると思えます。できることなら一人でも多くの皆様と接しあうようなことができれば良いと思えます。そのために、この商青連があるとするは素晴らしいことだと思えます。どうか今後とも商青連に「理解を頂きたい」とお願いするとともに、「二年間ご協力いただきました皆様」に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

次年度会長挨拶・次年度への抱負

「立ち止まるな！そして胸を張れ！ YEGs, be ambitious」のcall、突き進む！

平成14年度
全国商工会議所青年部連合会

会長 大脇 唯慎



全国の皆さん！本年度は各地に於きまして大変お世話になり、誠に有り難うございました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。平成13年度は単会副会長という立場で全国行脚を遂行しました。平成14年度を含めまして既に、日本を巡回させて頂いております。全国を縦断するこのYEGネットワーク、全国各地にお住いすること多くの仲間と触れ合い、語ることで初めて見えてくる実状があります。

次年度は商青連の会長として、皆様と協力を交えることができる立場を胸に抱きつつ、奮闘覚悟であります。三万人の若者の商青連！商青連の若者の三万人！「常々諦めて頂いておりますが、次年度は「立ち止まるな！そして胸を張れ！ YEGs, be ambitious」という精神に問いかけるスロガンを掲げさせて頂いております。変革したこの経済社会、速攻を彷彿とさせるようなアパレルバイラルの「スロガ」は困難な状況を乗り越え、地域活性化の原動力を担う青年経済人の意気高し！の志を込めたものであります。そしてその目的達成のために、各単会においては県連からのポ

ムアラブと商青連から各地への確かなファイナルバック、この東方向の原理がしっかりと絡み合うことが、本来の我々の組織であると思っております。ワクワクというゲインインの突破とは、敵が強いほど困難を極めるものであります。目的はゴールまで、心を決めることです。そして、走り続けるまで、心の運搬というバスを牽き、もう一度ではありませんか、その中でお互いを認め合う姿勢や次への大いなる勇氣、或いは野望が、芽吹き始める筈です。来る平成14年度、一生に二度の通過点であります。どうぞ走り過ぎるのであれば、残りの残りぬき、無駄の無きよう、元氣よく爽快に突っ走らうではありませんか。折しも平成14年度は日本と韓国に於いて「ルドルフ」が活躍されます。製造業の空洞化を深刻化してきておりますが、アジアの扉を取っ払い、共存共栄の新たな道を開拓することでも、我々青年経済人に課せられた使命であります。どうか、皆さん！確かな手紙を求め、日本商工会議所全国商工会議所青年部連合会の「目である」という誇りを、それぞれが持ち、大きな飛躍への一歩を踏み出すことが出来まますよう、心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが、次年度は商青連設立20周年を迎えます。歴代の先輩諸氏が築いてこられた偉大な功績とそのご尽力に、心から敬意を表します。第20代会長として、YEGに誇りを持ち、突き進む事をお約束申し上げ、私の後継とさせていただきます。

[ALL FOR ONE, ONE FOR ALL!]

平成14年度 商青連役員名簿

役員名	氏名	YEO名(原 名)	役員名	氏名	YEO名(原 名)	役員名	氏名	YEO名(原 名)
会 長	大島 昭憲	鹿沼地(鹿沼地)	副 会 長	岡部 邦昭	熊 鷹(熊 鷹)	監 事	山口 美子	高 橋(高 橋)
副 会 長	五原 幸一	亀 田(亀 田)	副 会 長	塚本 功治	出 雲(出 雲)	副 会 長	川口 裕	五 井(新 潟)
副 会 長	鈴木 敏彦	小田原(神奈川)	委 員	石黒 善雄	鳥 井(神 岡)	副 会 長	松村 正和	高 橋(廣 島)
副 会 長	手嶋 裕明	栗 田(北海道)	委 員	横井 智一	松 原(高 山)	委 員	島田 功	大 橋(福 田)
副 会 長	大村 邦典	高 津(茨 城)	委 員	藤田 英樹	松 代(京 都)	委 員	泉岡 弘明	土 浦(茨 城)
副 会 長	中野野一郎	兒 島(高 山)	委 員	中山 健一	青 森(青 森)	委 員	田中由明貴	津 田(愛 知)
専 任 監 事	菅野 光博	久留米(香 川)	委 員	川西 義隆	長 瀬(香 川)	委 員	中岡 正彦	赤 穂(兵 庫)
監 事	加藤 敏史	新 北(北海道)	副 会 長	高木 雅文	倉 吉(鳥 取)	委 員	山田 浩志	丸 亀(香 川)
監 事	上田 崇C	北 松(長 崎)	副 会 長	丸山 昭C	柳 乃(和 歌 山)	副 会 長	石原 一夫	伊 勢(徳 島)
北 海 道	国枝 恭二	樽 広(北海道)	委 員	岡 守 石	(千 葉)	委 員	西岡 一明	日 野(徳 島)
東 北	鈴木 雄三	弘 前(青 森)	委 員	林 洋三	盛 西(徳 島)	委 員	奥田 康介	岡 山(岡 山)
東 海	山田 敏雄	高 津(静 岡)	委 員	藤田 敏之	守 門(大 阪)	委 員	河野 寛文	新 潟(山 口)
北 陸 道	渡部 伸弘	高 野(長 野)	委 員	小嶋 利広	香 石(福 山)	委 員	尾崎 英敏	桑 子(山 梨)
東 京	牛丸 圭五	高 山(神 奈 川)	委 員	足立野太郎	米 子(鳥 取)	委 員	石石 光洋	行 橋(香 川)
近 畿	中村 清志	長 瀬(徳 島)	副 会 長	印本 文孝	伊 賀(徳 島)	委 員	平田 健二	玉 名(徳 島)
中 国	C田 一宏	弘 島(広 島)	副 会 長	藤崎 哲	深 川(北海道)	委 員	藤原 亨	清 志(香 川)
四 国	林本 隆	高 知(高 知)	副 会 長	前野 浩史	小 笠(徳 島)	副 会 長	作田 亨	村 上(徳 島)
九 州	松下 一郎	松 崎(鹿 児 島)	委 員	橋本 立雄	横 濱(神 奈 川)	副 会 長	山本 博史	船 橋(京 都)
			委 員	藤田 伸一	七 尾(石 川)	副 会 長	島崎 新一	津 久 野(大 分)
			委 員	佐藤 正尚	島 本(三 重)	委 員	西村 伸行	島 本(廣 島)
			委 員	岡崎 晋史	森 原(徳 島)	委 員	鈴木 志彦	山 本(山 梨)
			委 員	高田 秀雄	弘 島(広 島)	委 員	田中 一幸	高 橋(香 川)
			委 員	松内 雅博	徳 島(徳 島)	委 員	田田 昭介	後 父(徳 島)
			委 員	笠田 善好	須 磨(和 歌 山)			

平成14年度 年間スケジュール

	ブロック大会・全国大会・ 会員総会・全国会長研修会等	役員会・正副会長会議・ 委員会等	ブロック別会長会議	ブロック別 単体会長・ 専任役員会議	備考
4月		18日(金)～20日(土) 第137回役員会等(鹿沼地)	13日(土) 四国(高知) 20日(土) 九州(鹿児島) 26日(金) 東北(盛岡) 27日(土) 北海道(帯広)		04月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 開催地決定、両青連が「主催立候補案」受理
5月		24日(金)～25日(土) 第138回役員会等(守口門員)	22日(水) 中国(広島) 23日(木) 近畿(加古川)		・青年部連盟が議決決議書 両青連会費請求
6月			1日(土) 関東(沼津) 6日(水) 北陸(湯浜) 7日(金) 関東(松坂)		06月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 「主催立候補案」を正副会長会議にて検討し、審査し、 票に特色
7月	13日(土)～14日(日)●九州(福岡)	24日(水)～25日(木) 第139回役員会等 (東京・東横ビル)			07月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 主催地を役員会で決定 次年度ブロック大会開催予定の公示
8月	31日(土)●四国(土佐清水)				機関紙「厚生」発行 ○平成17年度全国大会(中地区) 平成16年度全国会長研修会 (西地区開催希望報告)
9月	7日(土)●関東(高知) 13日(金)●関東(沼津) 14日(土)～15日(日)●北海道(旭川) 27日(金)～28日(土)●近畿(松坂)				
10月	3日(水)～4日(金)●東北(盛岡) 10日(水)～11日(金)●北陸(湯浜・津軽) 18日(金)～19日(土)●中国(広島)	23日(水)～24日(木) 第140回役員会等 (東京・東横ビル)			○10月末日まで 平成17年度全国大会・平成16年度全国会長研修会 開催地をブロック代表理事会議にて一ヶ所に 議決し、15年4月までに届出受理、正副会長会議で精 算・審査、7月役員会で開催地決定
11月	8日(金)～8日(土) ●第22回全国大会(守口門員) ●第37回役員総会(守口門員)	第141回役員会等(守口門員)			
12月		3日(水)～4日(木) 第142回役員会等 (東京・東横ビル・フット)			
平成 15年					○1月末日まで 平成17年度全国大会・平成16年度全国会長研修会 開催地を地区内ブロック代表理事会議にて一ヶ所に 議決し、15年4月までに届出受理、正副会長会議で精 算・審査、7月役員会で開催地決定
1月					
2月	7日(金)～8日(土) ●第20回全国会長研修会(松) ●第38回役員総会(松)	第143回役員会等(松)			機関紙「厚生」発行
3月					

上記以外に平成14年度役員予定者会議として

平成13年11月8日(水) 第1回役員予定者会議(小田原)(全国大会開催地候補中)

平成13年12月6日(水)～7日(金) 第2回役員予定者会議(東京)

平成14年1月16日(水)～17日(木) 第3回役員予定者会議(長崎・方リアック)

平成14年2月8日(金) 第4回役員予定者会議(久留米)(全国会長研修会開催地候補中)

山口会頭メッセージ



全国各地の青年部の皆様には、地域を支える経済人の一員として商工会議所活動に積極的にご参画いただいております。日頃より大変心強く感じいております。

現下、わが国は極めて深刻な経済状況の中で、日本経済を再び持続的な成長路線に戻すために構造改革に取り組み込んでおりますが、その手前や手法を誤ると、かえって経済をデフレ・スライヴルに追い込み、回復不能な状態に陥れてしまふ危険があります。

現在の不況の原因は需要不足にあります。したがって、私は、構造改革を成功させ、再びわが国が「健康な日本」をとるためには、当面実効ある大胆な景気浮揚策により経済の安定が確保され、その下でわが国経済の基礎を担う中小企業が本来有する創造性・機動力を十分に発揮できるように、また経営者が元気を取り戻せるように、金融・税制・事業支援制度などの拡充に万全を期すことが必要であると考えております。

申し上げるまでもなく、中小企業が活力を取り戻すことなくして、今後のわが国経済の発展はありません。中長期的な視点に立つて、新規創業支援をはじめ、中小企業が経営革新に積極的に取り組み、新しい分野や前向きな投資、技術開発に果敢に挑戦できるよう、潜在力を持ち意欲ある中小企業を大いに伸ばすための施策を重点的に実施することが重要であります。日本商工会議所といたしましても、新規創業や中小企業の経営革新の支援に全力を挙げて取り組んでいく所存であります。柔軟な発想と「エネルギッシュな行動力」さらには「スピーディーな対応力」そして「旺盛な企業家精神」を持ち合わせる青年部の皆様におかれましても、是非とも明るい日本の未来に向けて、大いに「リーダーシップ」を発揮し、今後のわが国経済の発展と、「健康な日本」の創出を目指してなお「層」ご活躍いただきますようお願いいたします。

今後とも、青年部の皆様からの「層」ご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

平成14年3月 日本商工会議所会頭 山口信夫

商工会議所の動き

外形標準課税反対 全国で署名運動スタート

日本商工会議所をはじめ経団連、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、全国商店街振興組合など74の経済団体で構成する外形標準課税導入反対協議会ではこのほど、法人事業税への外形標準課税導入問題について、全国で反対運動を盛り上げるため、大規模な署名運動を開始した。小泉内閣が今年1月から検討を開始した税制の抜本改革に経済界の意見、とりわけ中小企業の生の声を反映させることが目的。5月までの約3ヶ月間で全国の中小企業経営者やその従業員などを対象に署名を募り、政府・与党などに提出することになっている。

(本文)

法人事業税への外形標準課税問題については、各地商工会議所をはじめ、経済界を挙げて反対活動を行った結果、昨年末の平成14年度税制改正では、資本金などを課税標準とする総務省案は否定され、導入は見送られた。

総務省案の主な問題点

- 法人のみ対象。取り易いところから取る安易な不公平税制
- 最大の課税ベースは「資本金」。雇用に大きな打撃
- 租税力を軽減。赤字中小企業に約6,000億円を課す大増税
- 納税・徴税コストの増大
- 諸外国では雇用への影響を考慮し、相次いで廃止の方向

しかし、昨年末の与党税制改正大綱には「今後、各方面の意見を聞きながら検討を深め、具体案を得たい」と、景気の状況等も踏まえつつ、平成15年度税制改正を任途にその導入を図る」と明記され、導入の火種が消えていない。

小泉内閣では、2002年を税制の抜本改革を行う年と位置付け、政府税調や経済財政諮問会議などで先月から検討を開始している。政府税調で6月を目途に改革の主要論点を公表。経済財政諮問会議では税制改革の「工程表」をまとめる予定となっている。その検討テーマの一つに、法人事業税への外形標準課税導入問題も含まれる可能性が高まっている。

このため、日本商工会議所では、従来以上に外形標準課税導入反対運動を全国的に盛り上げていくことが極めて重要と判断。中小企業団体の経団連などで構成している外形標準課税導入反対協議会でオール経済界として大規模な導入反対署名運動を展開することを決めた。

日商では、今後あらゆる機会を通じて導入反対を訴えることで、国民的な議論を喚起し、外形標準課税導入による影響の大ききなどについて広くPRしていく。署名運動は各地の商工会議所などを通じ、今年5月までの約3ヶ月間で全国の経営者とその従業員などを対象に行う。安易な不公平税制であると同時に雇用に悪影響を及ぼす資本金課税である同課税の根本的な問題点を示し、署名への協力を呼びかける。

委員会報告

総務委員会活動報告

3年製大改訂計画になりました。本年委員総務委員会では古島会長の「開かれた青春道」との御言葉を受け、ホームページ上において青春道役員会の会議内容の公開、すべての活動の予定の掲載、委員会ページにて活動に関する情報を提供など、活動事務局並びに広報委員会の協力を得ながら委員会メンバー一生懸命努めてまいりました。全国YBGの管理に対し、微力ではございますが貢献できたものと思っております。

最後に当委員会が一年間関与した今年度の青春道のあり方の大きな2つの意見を報告してまいります。年齢制限について、青春道は各学会の運営で実施されているため強硬な提案が

ない、旧来の伝統に反動され、旧内を代表する青年組織であるので、全国のYBGメンバーに活動の機会(チャンス)を均等に与えるために、望ましい会員年齢を明示すべき時が来たと考えます。また早急と委員会とのあり方について青春道が旧来の伝統に反動されたことを受け、各学会と委員会との最終的協議は、あり方を青春道から各学会一委員会へ提示すべきであると考えます。(案)委員会に定款に青年部を定めた場合、委員会が青年部役員が議決権を持つて参加する、等以上2つの意見を申し送り、早急の次年度からの青春道でぜひともご検討いただきたいと思っております。

企画委員会活動報告

私たち企画委員会は大副会長のご指導のもと、7名のメンバーで活動してまいりました。最大の目的は「青春道のなかで最大規模の事業である全国大会」(今年度の締め括り)であると同時に、次年度の創刊50周年の場でもある全国会長研修会(この二つの大会の成功の是非にかかっている)です。御承知のとおり、主催者である青春道と主催される各学会との協賛関係です。主催者として関わっている大会コンセプトを主催者である各学会との熱い思いと結び合わせて具体的にどう実現していくか、この事を最大のテーマとして3年製取り進んでまいりました。

また、今年度の大会だけでなく、次年度(もしくは翌年度の大会)の開催地決定、基本的な枠組みの確定なども重要な仕事の一つでした。そしてこれらの事を進めて、青春道が考え

ること、目指している4の各全国の若者にご理解いただき、また一方で会員の皆さんが青春道に何を期待しているか、どうい種編であるべきかという思い(卒業後生活に反映させること)もまたひとつの大きな課題であったように思います。1年という期間、あっという間に過ぎて充分な仕事が出来なかったのでは反省しております。私達を導くこの時代、産工会議(青年部)は何をすべきか、そしてその集合体である青春道はどうかあるべきか。

アック大会、全国大会、全国会長研修会はじめ、いろいろな場で全国の皆さんからいただいた熱いフィードバックを確実に今年度(1)にフィードバックすることで1年間の活動を締め括りたいと思っております。

研修委員会活動報告

13年度研修委員会では、「無生塾」「ケンブリッジャー研修会」を企画、運営させていただきました。研修委員会の事業は他の委員会と違い、事業の対象者が全国の一般会員ということで、「無生塾」は「無生塾」として知られる魅力ある企画をまとめることに重点を置き、取り組むことになりました。しかしその中で、いくつもの課題もいただきました。まず「無生塾」に関しては、今年から日本産工会議の定款に載ったことから、韓国の方でも6月に開催された「第2回産工会議(世界大会)」の場から企画されたことでした。そしてさらに100人規模での開催をし、車1台以上の日本産工会議からの要請も受けました。また「ケンブリッジャー研修会」に関しては、予算を増やすことなく、アック大会の場から「無生塾」を開催して内部の研修会にしようとしたことでした。これらの課題は、その後すべてにおいて困難な問題となって我々委員会メンバーが苦しむことになりました。年度当初において夢に思っていました。

1月に委員会メンバーの配置が発表された日から、この「無生塾」の企画会議をしなければならぬという、絶たしいスケジュールでのスタートとなりました。それというにも月と月とに開催するには、世界大会のイベントの締め切りや東京ヤマトの予備会まで進まなければならないこと、2月に日程を決めて3月に会場を始めるという間に合わなければならないからです。委員会では話し合いを進めていきましたが、世界大会という大型のイベントと研修会とを兼ね合わせる手前、会場料が高額にならないようにと進められたり、会場が狭い、たくさんの受講者があつたこと、しかも、その間の期間と時間とに合わないもの、一つ一つ解決していく状態においてはなかなか進捗が早まりました。ただひとつとて100人規模での開催という課題は、今年度中に解決できなかったものでした。役員会で、この1年での課題、アンブレナーズ委員会から、電話やメールなど、考えられるすべての手段を使って委員会メンバー一丸となって最後の最後までお願い(すし)を詰めあげたことがお話ししました。そして最終参加者90名と少し手詰まりになりましたが、14日開催をクリアすることができたことに、参加していたメンバーに心から感謝しております。「無生塾」「世界大会」の事業内容で、研修会という見込みは世界大会のため

に若干の遅延はあったものの、韓国(青年)経営者との意見交換会、経済セミナー、産業視察など大規模な産工会議の多大な協力のもとに開催できたこと、内容の充実がはかばかたのではありません。また世界大会のワーキングセッションにおいての古島会長のスピーチと青年部のアック、そして参加メンバーの報告で企画したことは、とても感謝いたします。

次に10月には、「ケンブリッジャー研修会」を開催しました。「無生塾」が終わった時点で4日間の研修が予定されて、まったく自給の状態でした。7月の役員会には絶対に、上層に承認をいただくことには10月開催をあらかじめ決めたいというつもりで、ある程度気持ちは先行しておりました。最近のアック大会はかなりの大物講師をよんでいて、それ基調として本場に集まって、しかも、講師をして、その又別に研修会に講師を講師するということに、しかも、それと別にアンブレナーズ委員長の協賛の協力のおかげで、「無生塾」社長(三木谷氏)と1泊2日大物講師に来ていただくことが、上層関係がかなり企画を進めることができた。当日の「ケンブリッジャー研修会」には2泊2日というわけではないメンバーに参加してもらったことができた。そして講師やコーディネーターやパナソニックのメンバーなどを追加で呼び入れて開催したことで、非常に貴重な観点で研修することができたのが、良かったのではないかと思います。また講師を終了後の懇話会においては、アンブレナーズ委員長の協賛を頼み盛大に行うことができたこと、委員会メンバー一同たいへんお話ししました。

今年度の研修委員会事業において参加メンバーの皆さんが納得していられたら幸いです。いろいろ意見があるとは思いますが、進まない点も多々あったことを反省しておりますが、委員会メンバーになりましてお話しした方がいいと思います。

研修委員長という大役を1年間でやっていたり、私自身が一番悩ませていたのではないかと感じております。いろいろな方に支えていただき、たくさんのYBGメンバーの御協力があったことこの場をお借りして御礼申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。

広報委員会活動報告

14年度広報委員会では、青年部メンバーに広く青春道を知っていただくため、2年にわたって広報を目標、「無生塾」「無生塾」の編集・発行と青春道ホームページの企画・運営に取り組んでまいりました。

無生塾(無生)に関しては、過去の記事に加え、できるだけ身近に感じいただくため、各地のYBG事業を記事として取り上げました。また、発行時期が変更されたことは、委員長の不断の働きかけにより実現することができました。

青春道ホームページ(以下HP)に関しては、HPを見れば青春道の動きがわかるよう努めて

まいりました。また、HPを見ていただくために試験的にメールマガジンを発行いたしました。

1年間という短い期間ではありましたが、以上のメディアで全国の皆様と対話できたことは、非常に有意義で、貴重な体験をさせていただきました。併しもちろん、年度当初想定していた全国の有志者からHPで報告できなかったことが残念です。また、皆様から御寄せいただいたお問い合わせ記事は、今年度への申し送り事項として、

最後になりましたが、記事・連絡にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございます。御礼申し上げます。

アンブレナーズ委員会活動報告

今年度のアンブレナーズ委員会、一年間の活動を振り返ると、私自身が感じた事をまずに申し上げます。まず、本会に深く関わって頂いた古島会長、副会長、及び各委員の方々に御礼申し上げます。当委員会は4月に発足し、12名の方で立ち上げました。人数が多ければいい事、少ないと結構で、テーマを絞る必要があるために各学会長、副会長、リーダーの方々に大変ご苦労された事と思っております。

今年度は「創業家精神が日本を変えていく」というテーマで、スタートしました。本会に創業家精神(創業家マインド)を理解された方と、高い理解力があった方に分かれたのが、非常に残念です。創業家は重要な方々で、そうでない人が出たという事は、私も反省し改善すべき事と学びました。日本人は、やる人間とやらない人間、そのどちらでもない人間の二つのタイプに分れるとよく言われますが、本会にそれが現れたと思います。しかし、一部のうち、部分的な理解に取っ組み合いの方向ではなく、アンブレナーズ委員会の今年度の事業報告書が出来たこと、取りまとめて頂いた、高橋副委員長、大友お疲れ様でした。このアンの事業報告書を見て頂ければ、今年度の各学会の取り組み姿勢、熱意、そしてその成果が全国の青年部の皆様にも、ご理解頂けると思っています。

アックは単に自分の事業の発表だけでなく、「連絡と交流」を通して、次に何をすべきかの方向性を各委員長は、4年間、自ら行ってきた。そこで私自身、今年度の活動(7月2日、

創業家)を3つの会社でアップした。その一つは「伝説の車を造ろう」というプロジェクトの元、日本でも自動車部品になる自動車メーカーを設立しました。そしてその元上の一部を、創業の予備金のための準備、実現を建設した「建設の子供達の為に何かできないだろうか」という考えの、車好きの仲間が集まった会です。創業の子供達には、専門の技術や知識が少なく、出資が容易でない、保険が掛からないのが現状です。そこでこの会社は、伝説の車を造ろうという事業を通して、「何か出来ないだろうか」という理念の元に活動しました。現在平成14年3月末には一車が発売する予定で、6月に発表します。これから時代は、企業の人資削減が叫ばれ、それが企業生命にも影響を及ぼすと言われておりますが、私自身言う所の人間で済むことなく、実践者として事業を通じて社会貢献を行えば、地域社会が、そして日本が、方向に変える一助になるのではないかと、創業家には、数え切れない課題があります。アック(それを乗り継ぎ)と、建設の子供達プロジェクトとして「伝説の車」(「伝説の車」)と「伝説の車」(「伝説の車」)という考えを持って、地域や社会のために自分が何が出来るかを事業を通して考えたいと思っております。

最後にYBGにおいては特に、次年度以降「事業」が「真実」となるべきです。そして、今年度行われたこと、私を支え、推進して来ていただいた方々へ、事務局を始めと協力頂いた皆様方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。感謝申し上げます。

YEGセレクション 決定!

受賞

平成13年度YEGセレクション決まる!

平成13年度YEGセレクションの受賞式が、
2月9日、九州は久留米において、
会員総会後、鈴木専務理事より発表があり、
下記の8社の方が受賞され、古泉会長より表彰されました。



(株) セゾンファクトリー

現代人の食生活をサポートしつつ「白い
マヨネーズドレッシング」として女性層の
販路拡大に努めた新しい試み



(株) スペースクリエイション

製造業の商品開発やマーケティングサポート
など一貫した産業活性と企業の創業支援に貢
献し、中小企業の御下請けを奨励した試み



金升酒造 (株)

日本酒という伝統産業に女性や若者の新
規顧客開拓について商品開発並びに容器
開発を行った試み



福井インターネット (株)

インターネットのシステム独自開発による地
域情報の配信により多くの地域住民に情報
提供を行った試み



(株) 三種

餅穀を手軽に食べられるようにブレンドし、
少量包装することで、核家族化した現
代家庭の食卓に提供した試み



三和マッチ (株)

現ウェブ上でギフト関連企業を集めより多
くの顧客層を開拓したことと新規顧客開拓
により新しい業態を社会に創出させた試み



(株) タカノ

日本の伝統的な工芸「漆器」を冷蔵庫から
電子レンジまで対応させ一般家庭への
普及に貢献した試み



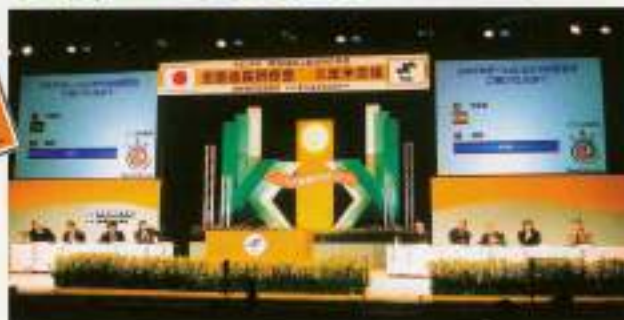
(有) 市政本店

ネット上で大型店の取組みのない販路を開拓
し新しい市場開拓と専門に突出することでニ
ーズの多様化に対応した試み



全国会長研修会 久留米会議

連携YEG実践展開 パーチャルからリアルへ



研修会

2月8日(金)
14:00-18:00
市民会館大ホール

■開会式
2月7日(木) 18:00-21:00
市民会館

■大会閉会式
2月9日(土) 18:00-21:00
市民会館大ホール

■閉会式
2月9日(土) 10:00-11:30
市民会館大ホール



若き経済人が、夢語った。仲間の顔が見えてきた。みんなの思いが、聞こえてきた。「久留米会議」！

御礼

全国会長研修会久留米会議大会会長 福田有史

全国YEGの皆さん「第十九回商工会議所青年部全国会長研修会久留米会議」に全国より「一九三単会、二四七名のYEGメンバーにご参加いただき誠に有り難うございました。関係各位の皆様のご支援ご協力を頂きましたこと、会員の皆様より頂戴いたしました熱き友情に對しまして改めて御礼申し上げます。

さて久留米YEGでは、会長研修会誘致決定に当たりこの会長研修会の意義を実行委員会メンバーとともに論議し「参加者全員が一堂に会し、全員で討議し結論を導く」方式を考え、全員参加型のアナライザーシステムによるアシタル研修会を企画いたしました。当日は秘密な打ち合わせの中で出てきたYEGに関する当面する課題を参加者全員意見をアナライザーでスイッチ



でスイッチ

オンしていただき、その集計を踏まえコーアイネーターとパネラーにアイスカッシュインしてもらいました。今回の研修会のシステム自体初めての試みでした。スタッフ一同緊張の連続でしたが、会場の参加者の皆さん、コーアイネーターとパネラーの方々のご協力により無事研修会を終了することが出来ました。

同研修会の運営につきましてはメンバーが一丸となり能力を挙げて進めて参りましたが、当日は何かと不行き届きがございました。ご容赦のほどお願い申し上げます。本会議の成果が全国YEGの皆さんに伝わり各単会の活動の糧となることをメンバー一同と願っております。また本研修会においては私達久留米YEG自身様々なことを勉強させていただきました。今後はこの貴重な体験を活かし、組織の活性化と向づくりに一層努力して参る所存でございます。皆様方には今後とも変わらぬ御指導御鞭撻の程とましくお願い申し上げます。

最後になりましたが、全国会長研修会久留米会議の開催にご理解を頂いた貴単会の皆様、さらに多大な御支援をいただいた皆様ならびに関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



▲久留米会議の様子



▲19名アソシエーションの様子



▲プレゼンテーションの様子



▲夕食会場の様子



▲運営委員会の様子



▲演説会場の様子

コミュニティビジネスと委員会活動

日本経済の再活性化のための
雇用創出型の構造改革を目指す！

新世紀に入っても日本の景気は低迷を続け、戦後の経済発展を支えてきた企業システムや政府の仕組みは時代の変化に対応できないでいます。一方、地域コミュニティにおいても少子化、高齢化が進み地域力が低下し閉塞感が広がっています。

政府は日本経済の再活性化のための雇用創出型の構造改革を目指している。そのなかで、生活者に関わるサービスは、これまで政府がその主な担い手として市場をコントロールしてきました。

NPOを含めた民間の活力と
比較的規模の小さな企業に期待！

しかし、厳しい財政制約下で、成熟社会の生活者の多様なウォンツを真の欲求をよりきめ細かく柔軟に満たすためには、NPOを含めた民間の活力を効果的に活用することが不可欠です。また、新たなウォンツを顕在化させる事業の担い手は、大企業でなくウォンツにきめ細かく応えられる比較的規模の小さな企業が中心であるとしています。

民間主体の新しい経済形態へ！

改革の時代にはそれにあふさわしい所得と時間の組み合わせが必要であり、個々人の働き方や暮らし方といった価値観にあった時間にとらわれない弾力的な働き方が必要となるとしています。不要な規制を撤廃して、民間主体の新しい経済形態のコミュニティビジネスに雇用創出の期待をよせています。

14年度コミュニティビジネス委員会

委員長 石原一夫

「コミュニティビジネス」って何？

コミュニティビジネスについて明確な定義はありませんが、概ね次のように考えられます。企業のビジネスは利益追求思考で、生産性や効率性が求められますが、コミュニティビジネスは、利益追求を第一としないで地域を基盤にして、住民が主体となり、起業家精神をもって、地域で埋もれている人、物、ノウハウ、情報等の地域経営資源を活かして、自発的に地域の問題に取り組み、ビジネスとして解決し、地域を元気にする事業活動です。

社会の成熟化、複雑化に伴い、環境、教育、介護福祉、情報ネット、まちづくり、観光、商店街の活性化、特産物・食品加工、安全等の様々な分野で地域住民が問題に直面したときに発する「ここが困る、こうして欲しい」というささやきがコミュニティビジネスのシーズであり、このささやきに耳を傾けることがコミュニティビジネスのスタートです。コミュニティビジネスを起業するにあたって次の視点があります。

1. その事業活動に携わるメンバーの「生きがいづくり」になっているか。
2. 地域が抱える様々な問題の解決になっているか。
3. 地域の資源を活用し、雇用を創出し新しい協働関係を創出しているか。
4. コミュニティの元気づくりへの貢献と事業性のバランスが採れているか。

ということを十分吟味し、得意な生活領域分野から起業することです。また、組織形態についても社会的性をもったNPOやPFIの組織にするのか、株式会社や有限会社組織にするのかについても検討する必要があります。

委員会活動について

商工会議所青年部副議長にあるように私たちは先導者として、地域の経済的発展を盛り、豊かな住みよい郷土づくりに貢献することを目的としています。

委員会ではコミュニティビジネスについての研修や先進地視察を行い、人格や、コミュニティビジネスのマネジメント能力を磨き、それぞれの地域でリーダーとして団体を組織し、新産業の創出や雇用の創出をすることを目標として活動を行います。

また、各ブロック大会等を通してコミュニティビジネスの必要性や緊迫しさを委員会活動報告という形で全国のYEGメンバーに知らせ、コミュニティビジネスが全国的な展開へと発展していくことを願っています。



「I(茨城)T(栃木)G(群馬)異業種交流事業」 ◆栃木工会議所青年部連合会会長 福田紳一

北関東三県(茨城-栃木-群馬)の県青年部連合会では、21世紀に迎えた地域社会の建設を積極的に進める中で、三県間の情報交換をさらに進め、交流・連携を進めることと、組織の充実を図ることを目的として、「I(茨城)T(栃木)G(群馬)異業種交流事業」を平成13年度から各県の持ち回りにより毎年開催している。

同事業は、当時の三県青年部連合会会長が、北関東自動車道【常磐自動車道(茨城県)→東北自動車道(栃木県)→関越自動車道(群馬県)全長約150km】の全線開通と首都圏河川(茨城県)の開通により三県が一層緊密になり、ビジネスチャンスが拡大することが予測されたことから県域の特を備えた青年部会員の交流事業を推進していくと始めたもので、群馬県太田市で第1回を開催し、昨年は茨城県で開催された。

第3回となる今年度は、三県青年部連合会会員180名が栃木県野野宮に一堂に会し、地元住居YEGのメンバーが中心となって企画運営を行った。当日は晴式に恵まれ、第1部は第一酒造-吉野冠造から大層の祝辞と会員親睦のためのゴルフ大会がそれぞれ行われ、参加者相互の交流を深めた。その後、第2部の講演会では「北関東地域の将来について」と題し、衆議院議員清水敏夫氏より、北関東自

動車道による経済効果や国会等移転問題など、様々な角度から見た北関東地域発展の可能性について約1時間30分の講演を聞いた。第3部の交流会では、異業種、異業種の参加者がそれぞれにテーブルを囲み議論を深めるとともに、新しいビジネスチャンス発見のための積極的に関わり合い、情報交換を行い、懇話のうちに閉会した。

この事業を通じて、北関東三県の連携・支拂の輪をより一層強固なものにできたと確信するとともに、将来様々な面で中アキシャルの高い北関東地域において、時代の変化に同時に対応し、新たなビジネスチャンスを探り出すことができるよう今後とも三県のネットワークを充分に活用し、県域を越えた事業を参加者全員が積極的に展開していく決意を新たにした。



▲交流会の様子

「商青連の生きる道・アントプレナーズ事業」 ◆兵庫県商工会議所青年部連合会会長 木下一成



▲セミナーの様子

北関東三県(茨城-栃木-群馬)の県青年部連合会全国各地のYEGでも「若手後継者育成補助金」を受けておられる事と思いますが、兵庫県青連も平成13年度、同補助金を受けて「兵庫YEGアントプレナーズ事業」を実施してきました。商青連主催の京都セミナーへの参加を含めて5回のセミナー開催という内容ですが、京都以外すべてオリジナルの企画でシリーズ展開のセミナーです。毎回、テーマに基づく基調講演の他に、実際に事業を起こし成功されている社長をお招きして講演をいただきました。さらに「聞くだけ」では説き及ばないとの賛同から、各回の最後には講師やゲスト社長と意見を交換し合う時間を充分に取り、自己啓蒙を図ってきました。さらに次年度以降も継続実施の予定です。

話は変わりますが、そもそも商工会議所青年部の本来の役割、目的は何なのでしょう

うか、もちろん、ただ集まり、話題を深めるだけの団体ではないはず。また、地域には商工会議所青年部以外にも青年団体が、色々あると思いますが、それら団体と同じ、もしくは後進するような活動を行っているだけでは、意味がないのではないですか。

地域経済の発展に貢献し、地域活性化に資することをお金の目的です。しかし、それは自分自身の知識ならびに自社の発展の上にとこそ、実現できるものであるはず。即今の経済状況については、ここで触れるまでもなく、皆さんご承知の通りです。しかし、我々YEGの「E」とは何なのか。今こそ「若手アントプレナーズ」として、我々は起業、創造、経営革新していくべきではないでしょうか。

兵庫県青連は、そのような思いで、アントプレナーズ事業をスタートさせたのです。また一方で都道府県から青年部に対する資金助成金が、各半年から1区域を単位として送付されています。その是非は置かれるところではあります。都道府県連という組織の存在意義が問われているのではないのでしょうか。各都道府県連におかれましては、是非この機会を活かし、有意義で活発な活動を展開していただきたい。親睦的に単会だけでは難しい事業実施も可能かと思います。そして我々参加者は、そこで受けた知識や判断を自身の事業、ならびに単会での活動に活かしてゆくべきではありませんか。と、道を拓くことができると確信します。

「銭形まつり 賞金100万円!銭形踊りコンテスト」 ◆観高寺商工会議所青年部連合会

観高寺市では毎年夏の大イベントとして「銭形まつり」を開催しています。このお祭りには、観高寺市のシンボルである銭形の砂絵にちなみ「銭形の青」さんおんこ(を広く全国に紹介するとともに、観光客の誘致を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的として観高寺商工会議所が発起人となって実施しており、今年で37回目を迎えようとしています。



▲銭形踊りコンテストの様子

このお祭りも、第30回までは都立大が中心のよくある盆踊り大会でした。しかし、時代の移り変わりと共にマンネリ化が進み、観高寺市の年中行事であるにもかかわらず「商店街の祭り」と苦言を呈せられていました。また津島の「よさこい獅子舞り」のような、踊り自身が楽しみや楽しさを醸成している姿に「これが本来のあるべき姿なのではないか」とメンバーも感じ始めていました。

そこで、我々YEGから「もう一度活気ある祭り」という想いと愛着し、市内有志と委員委員会を組織し何度も議論を重ね、「市民が作り、市民が楽しむ、市民のための

祭り」を各言葉に新しい「銭形まつり」が出来上がっていききました。

そして、第31回から商店街会場での「おどろ」に加えて、銭形の砂絵のある岸野公園を舞台に、優勝賞金100万円の「銭形踊りコンテスト」、賞金総額100万円の電子型宝塚ゲーム「銭形おどろ」など、観高寺らしい参加型のイベントが誕生しました。おかげさまで昨年は約5万6千人の方にご来場いただきました。現在、我々YEGは「銭形踊りコンテスト」と「おどろ」を担当しています。今年も、来る7月20日(土)に開催することが決定しました。現在出場チームを募集しております。あなたの町からも、賞金目当てで参加してみませんか?



▲観高寺まつりの様子

●お問い合わせ
 観高寺商工会議所青年部までTEL(0875)25-3073
 E-mail yeg@kan-color.jp
 銭形まつりホームページ http://www.kan-color.jp/zengata/

皆さんのご意見お待ちしております!

このコーナーでは、北関東の青年部メンバーからのどっくばらんをお待ちしております。お問い合わせは事務局または商青連ホームページまで

CONTENTS

- 1 会長・次年度会長挨拶
- 2 次年度役員紹介
次年度年間計画
- 3 新会議からのメッセージ
- 4 委員会報告
- 5 YEGセレクション
- 6 会長研修会報告
- 7 コミュニティビジネスについて
- 8 YEG見聞録 北から南から
編集後記

後編 編集後記

今年度の青年部のメンバーは、1年間お付き合いいただきありがとうございました。ありがとうございました。また、この一年は、皆様にはじめに商青連を知っていただくの、全国の情報やタイムリーにお届けできるかを考えて運営してまいりました。また、その結果が、多く、皆様には感謝を込めてお伝えさせていただきます。次年度広報委員会も、加賀YEGの窓口委員長をはじめ、強力な支援を賜ります。皆様の御支援を感謝いたします。

最後になりましたが、「項目を進行に押し進め、力をつけていただきました。皆様には感謝申し上げます。」

お詫言
 来年3月号のスタートアップ紹介に掲載致しました関係者の写真が誤っておりました。ご本人はごめい、皆様には大変な迷惑をおかけ致しましたこと、心よりお詫言申し上げます。心よりお詫言申し上げます。

北 博明 (編集長)